

DIAMワールド債券オープン 愛称:ハピクロマイルド

追加型投信／内外／債券

月次運用レポート
2012年5月

商品の特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンドを通じて比較的高金利の期待できる資源国の公社債等に投資するとともに、日本国債に投資して、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざします。

- 比較的高金利の期待できる資源国の公社債および日本国債に投資します。
- 投資対象国を分散することでリスク抑制効果が期待されます。
- 毎月決算を行い、安定的な収益の分配を行うことをめざします。
毎月5日(休業日の場合は翌営業日。)に決算を行い、主として利子等収益を中心に分配を行うことをめざします。
毎年6月、12月の決算時には、利子等収益に売買益(評価益を含みます。)等を加えた額から分配を行います。
※ 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
※ 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。
分配金が支払われない場合もあります。
- 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

主なリスクと費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、下記の主な変動要因により、基準価額が下落し、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。当ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。その他の留意点など、くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

- 金利リスク…………… 一般的に金利が上昇すると債券の価格は下落します。当ファンドは、実質的に債券に投資をしますので、金利変動により基準価額が上下します。これにより投資元本を割り込むことがあります。
- 信用リスク…………… 実質的に投資する債券や短期金融商品等の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。
- 為替リスク…………… 当ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として対円で為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

当ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「お客様にご負担いただく費用について」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ 当資料は10枚ものです。P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」を必ずご確認ください。

なお、別紙1も併せてご確認ください。

設定・運用は

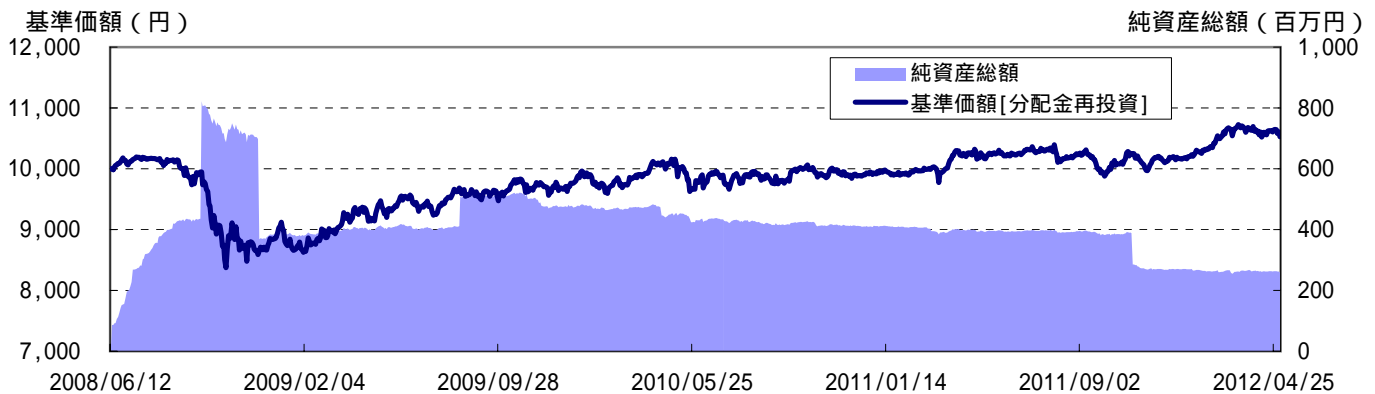
DIAMアセットマネジメント



商号等: DIAMアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会: 社団法人投資信託協会
社団法人日本証券投資顧問業協会

DIAMワールド債券オープン(愛称:ハビクロマイルド)
追加型投信/内外/債券
月次運用レポート(2012年5月)

運用実績の推移



基準価額[分配金再投資]は、税引前の分配金を再投資したもとして計算していますので、実際の基準価額とは異なります。
 基準価額[分配金再投資] = 前日基準価額[分配金再投資] × (当日基準価額 ÷ 前日基準価額)
 (決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)
 基準価額は信託報酬控除後です。なお、信託報酬率は「お客様にご負担いただく費用について」をご覧ください。
 (設定日:2008年6月13日)
 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

基準価額・純資産総額

| | |
|-------|---------|
| 基準価額 | 9,941 円 |
| 解約価額 | 9,931 円 |
| 純資産総額 | 259 百万円 |

ポートフォリオ構成

| | |
|----------|--------|
| 実質組入比率 | 96.1 % |
| 内現物等組入比率 | 96.1 % |
| 内先物等組入比率 | 0.0 % |
| 組入銘柄数 | 148 |

比率は純資産総額に対する実質組入比率です。

騰落率(税引前分配金再投資)

| | 1ヵ月 (2012/04/06) | 3ヵ月 (2012/02/07) | 6ヵ月 (2011/11/07) | 1年 (2011/05/06) | 2年 (2010/05/07) | 3年 (2009/05/07) |
|-------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 当ファンド | -0.91% | 2.08% | 2.78% | 3.59% | 6.65% | 11.85% |

1 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したもとして算出しておりますので、実際の投資家利回りとは異なります。
 2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

分配金情報(税引前)

直近3年分

| | | | | | | |
|-------------------|------|-------------------|------|-------------------|-------|-------|
| 第12期 (2009.06.05) | 10 円 | 第24期 (2010.06.07) | 10 円 | 第36期 (2011.06.06) | 10 円 | |
| 第13期 (2009.07.06) | 10 円 | 第25期 (2010.07.05) | 10 円 | 第37期 (2011.07.05) | 10 円 | |
| 第14期 (2009.08.05) | 10 円 | 第26期 (2010.08.05) | 10 円 | 第38期 (2011.08.05) | 10 円 | |
| 第15期 (2009.09.07) | 10 円 | 第27期 (2010.09.06) | 10 円 | 第39期 (2011.09.05) | 10 円 | |
| 第16期 (2009.10.05) | 10 円 | 第28期 (2010.10.05) | 10 円 | 第40期 (2011.10.05) | 10 円 | |
| 第17期 (2009.11.05) | 10 円 | 第29期 (2010.11.05) | 10 円 | 第41期 (2011.11.07) | 10 円 | |
| 第18期 (2009.12.07) | 10 円 | 第30期 (2010.12.06) | 10 円 | 第42期 (2011.12.05) | 10 円 | |
| 第19期 (2010.01.05) | 10 円 | 第31期 (2011.01.05) | 10 円 | 第43期 (2012.01.05) | 10 円 | |
| 第20期 (2010.02.05) | 10 円 | 第32期 (2011.02.07) | 10 円 | 第44期 (2012.02.06) | 10 円 | |
| 第21期 (2010.03.05) | 10 円 | 第33期 (2011.03.07) | 10 円 | 第45期 (2012.03.05) | 10 円 | |
| 第22期 (2010.04.05) | 10 円 | 第34期 (2011.04.05) | 10 円 | 第46期 (2012.04.05) | 10 円 | |
| 第23期 (2010.05.06) | 10 円 | 第35期 (2011.05.06) | 10 円 | 第47期 (2012.05.07) | 10 円 | |
| | | | | | 累計分配金 | 540 円 |

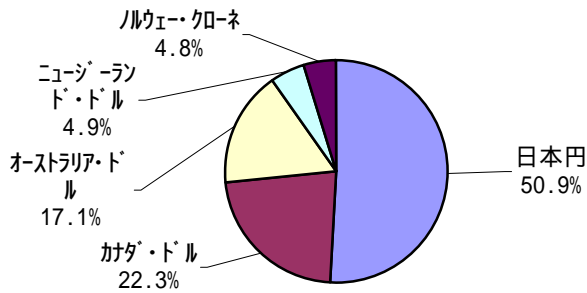
1 分配金は1万円当たり。
 2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
 3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。
 分配金が支払われない場合もあります。

当資料は10枚ものです。
 P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント



DIAMワールド債券オープン(愛称:ハビクロマイルド)
追加型投信/内外/債券
月次運用レポート(2012年5月)

通貨別構成比

比率は当ファンドが実質的に組入れている有価証券の時価総額比です。

ご参考 各資産のポートフォリオ状況**DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンド**

| | |
|-----------|-------|
| 平均複利回り | 2.99% |
| 平均クーポン | 5.36% |
| 平均残存期間 | 7.16 |
| 修正デュレーション | 5.46 |

DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンドが組入れている有価証券の時価総額を基に計算しています。

ポートフォリオの状況

| | |
|-----------|-------|
| 平均複利回り | 1.79% |
| 平均クーポン | 3.10% |
| 平均残存期間 | 7.71 |
| 修正デュレーション | 6.32 |

当ファンドが実質的に組入れている有価証券の時価総額を基に計算しています。

日本国債

| | |
|-----------|-------|
| 平均複利回り | 0.63% |
| 平均クーポン | 0.92% |
| 平均残存期間 | 8.24 |
| 修正デュレーション | 7.15 |

日本国債の時価総額を基に計算しています。

基準価額の騰落要因(単位:円)**(2012年4月6日~2012年5月7日)**

| | カナダドル | オーストラリアドル | ユーロ | ニュージーランドドル | 日本円 | 合計 |
|-------|-------|-----------|-----|------------|-----|------|
| キャピタル | 19 | 36 | 4 | 8 | 42 | 109 |
| インカム | 8 | 8 | 2 | 2 | 4 | 24 |
| 為替 | -69 | -79 | -21 | -29 | - | -198 |
| 小計 | -42 | -35 | -15 | -19 | 46 | -66 |
| 信託報酬等 | | | | | | -9 |
| 分配金 | | | | | | -10 |
| 合計 | | | | | | -85 |

◎上記の要因分析は、「簡便法」により行っておりますので、実際の数値とは異なります。傾向を知るための目安としてご覧ください。

◎キャピタルとは、金利変動の影響による債券単価の値上がり値下がり(評価損益で、実際の売買は行わなくても日々時価で評価しています。)と売買損益の合計です。

◎インカムとは、利子(経過利息を含む)などから得られる収益です。

DIAMワールド債券オープンの運用状況

当ファンドは、期待リスク・リターン異なる外国債券のマザーファンド(DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンド)および日本国債等(短期金融資産を含む)に分散投資を実施し、中長期的に安定した収益の積み上げを目指していきます。投資割合は、DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンドに50%程度、日本国債等に50%程度を目安とします。

当ファンドの基準価額は4月5日比で0.75%下落しました。基準価額の下落幅▲75円のうち、DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンドの基準価額下落要因で約▲111円(うち為替要因は約▲198円)、国内債券の要因で約+46円、その他要因で約▲9円となりました。

上記の当ファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

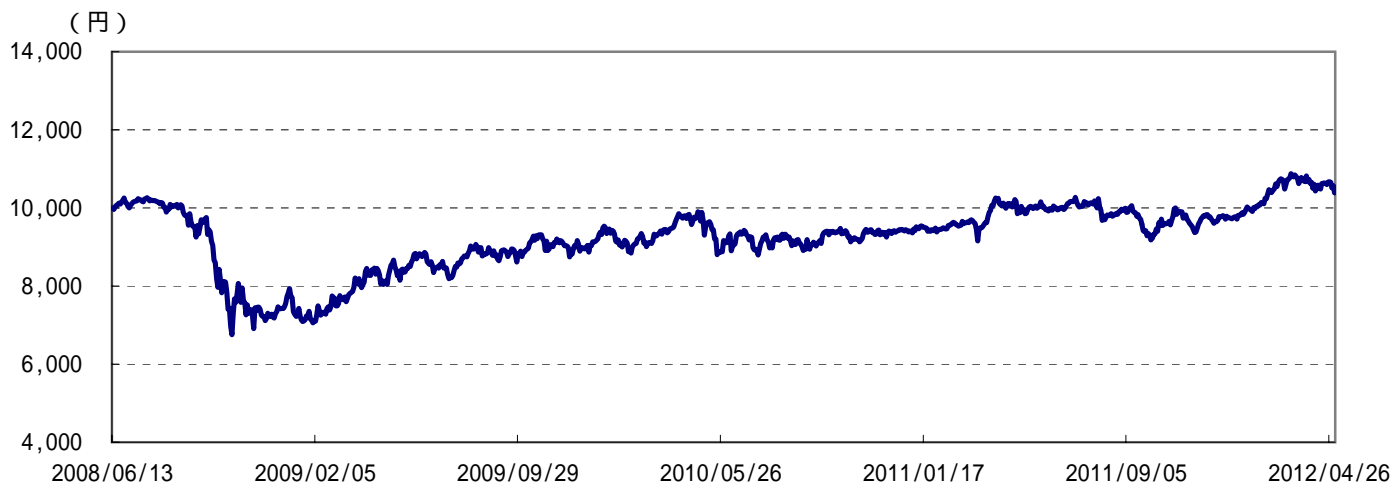
設定・運用は
DIAMアセットマネジメント



D I A Mワールド債券オープン (愛称:ハビクロマイルド)
 追加型投信 / 内外 / 債券
 月次運用レポート (2012年5月)

D I A M高格付インカム・オープン・マザーファンド

基準価額の推移



基準価額はD I A Mワールド債券オープンの設定日(2008年6月13日)を10,000として指数化しています。

基準価額・純資産総額

基準価額 16,350 円
 純資産総額 453,091 百万円

騰落率

| | 1ヵ月 (2012/04/06) | 3ヵ月 (2012/02/07) | 6ヵ月 (2011/11/07) | 1年 (2011/05/06) | 2年 (2010/05/07) | 3年 (2009/05/07) |
|-------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 当ファンド | -2.53% | 3.53% | 4.99% | 5.44% | 11.64% | 21.71% |

格付別構成比

| | 組入比率 | 銘柄数 |
|-------|---------|-----|
| A A A | 85.18% | 118 |
| A A | 14.82% | 22 |
| 合計 | 100.00% | 140 |

比率は組入価額に対する割合です。

格付については、海外格付機関 (S&PおよびMoody's) による上位のものを採用しています。また、+・-等の符号は省略し、S&Pの表示方法にあわせて表記しています。

通貨別構成比

| | 組入比率 |
|-------------|---------|
| カナダ・ドル | 45.55% |
| ノルウェー・クローネ | 9.69% |
| オーストラリア・ドル | 34.84% |
| ニュージーランド・ドル | 9.93% |
| 合計 | 100.00% |

比率は組入価額に対する割合です。

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

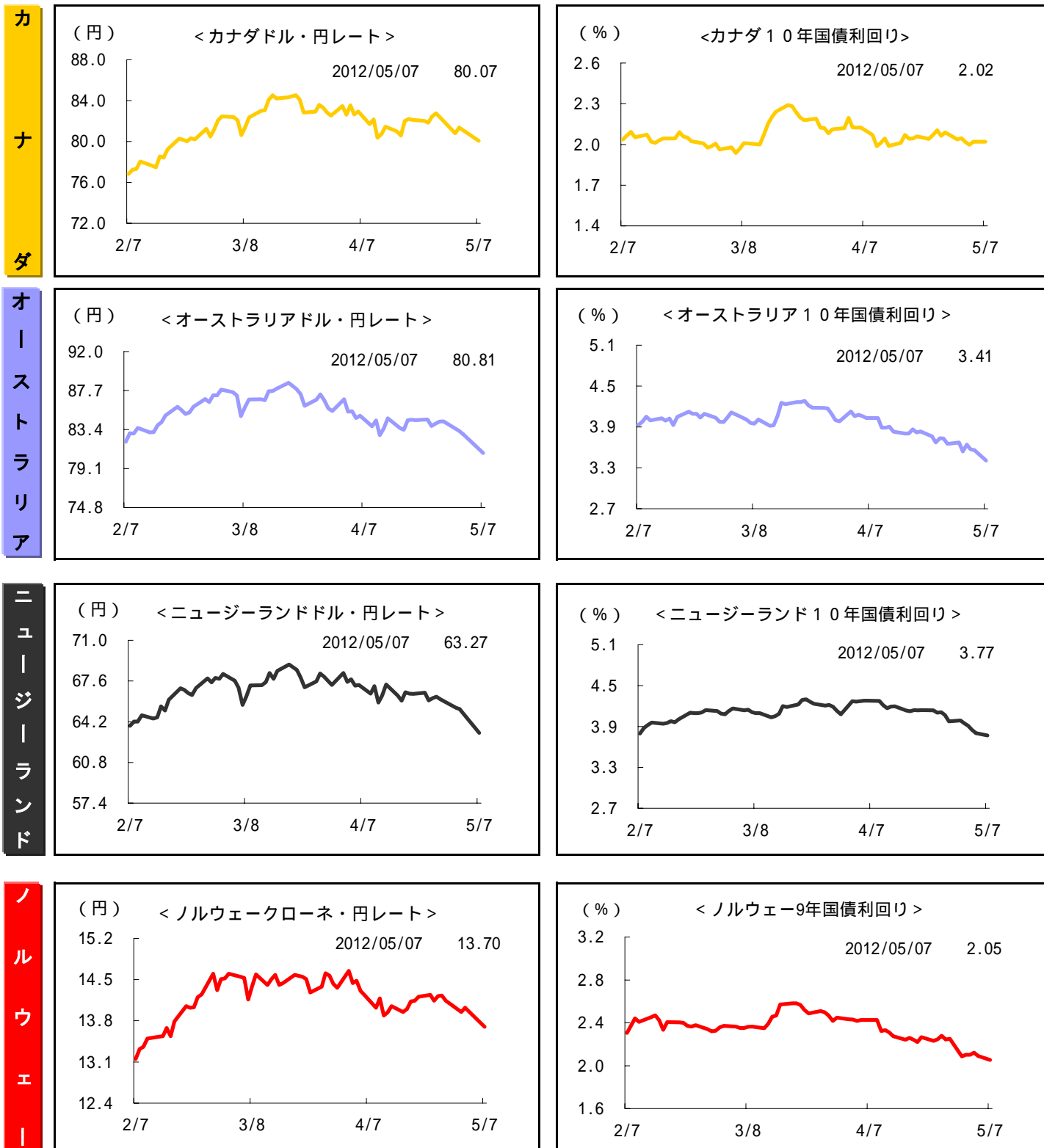
設定・運用は
D I A Mアセットマネジメント



DIAMワールド債券オープン(愛称:ハビクロマイルド)

追加型投信/内外/債券
月次運用レポート(2012年5月)

市況の動向(直近3ヵ月)



1 国債利回りはBloombergのデータを基に作成しています。
2 為替レートはTTM(東京外国為替市場の対顧客電信仲値)を使用しています。

当資料は10枚ものです。
P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMワールド債券オープン(愛称:ハビクロマイルド)

追加型投信/内外/債券

月次運用レポート(2012年5月)

DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンドの運用状況

<マーケット動向と当ファンドの動き>

債券市場では、多くの国・地域で利回りが低下(価格は上昇)しました。米国では雇用統計など多くの経済指標が市場予想を下回り、景気回復の鈍化が示唆されたことから利回りは低下しました。ユーロ圏では、ギリシャの総選挙で財政再建を約束した2大政党が過半数獲得に失敗するなど、政治の不透明感が債務危機への懸念を煽り、ドイツ国債の利回りは低下しました。当ファンドの組入国では、インフレ率が低下し利下げが実施されたオーストラリアを中心に全ての国で利回りが低下(価格は上昇)しました。

為替市場では、米国の雇用統計が市場予想を下回ったことや、ユーロ圏の一部の国で政治情勢が不透明化したことを背景に、リスク回避的な動きが強まり、米ドルやユーロといった主要先進国通貨が円に対して下落しました。当ファンドの組入通貨では、全ての通貨が円に対して下落(円高・現地通貨安)しました。

<カナダ>

中央銀行は景気が順調に回復し、将来は利上げが視野に入るとの見方を示しました。このため、金融市場では利上げ時期が前倒しになるとの予想が一時強まりました。しかし4月下旬から5月初旬にかけて発表された経済指標がやや弱めの内容となったことを受けて、利上げ期待はやや後退しました。このため、債券市場では利回りが低下(価格が上昇)しました。為替市場では円高カナダドル安になりました。

<オーストラリア>

中央銀行は経済成長とインフレに関する予測を引き下げ、市場予想を上回る幅の利下げを実施しました。足元ではいくつかの企業景況感指数が大きく悪化したことから、更なる追加緩和への期待も高まりました。このため債券市場では利回りが低下(価格が上昇)し、為替市場では円高オーストラリアドル安になりました。

<ニュージーランド>

中央銀行は政策金利の据え置きを決定しましたが、商品価格の下落にもかかわらず通貨高が続いていることに懸念を示し、通貨高が継続する場合には金融政策の見直しを再検討する必要があるとの見解を示しました。このため債券市場では利回りが低下(価格が上昇)し、為替市場では円高ニュージーランドドル安になりました。

<ノルウェー>

小売売上高などの経済指標が堅調な動きとなり、基調インフレ率はやや高まりました。中央銀行総裁は、スイスで採用されたような通貨高抑制策をとる意向はないと発言しました。ユーロ圏の高債務国に対する懸念の高まりから安全な資産に対する需要が高まったため、債券市場では利回りが低下(価格が上昇)しました。為替市場ではユーロ安の影響から円高ノルウェークローネ安になりました。

当月、当ファンドでは基本国別投資比率(カナダ45%、オーストラリア35%、ニュージーランド10%、ノルウェー10%)に沿って運用しました。ポートフォリオの平均残存期間については前月末とほぼ同様の水準を維持しました。

当ファンドの基準価額は、全ての組入通貨が円に対して下落(円高・現地通貨安)したことを主因に下落しました。

上記のマーケット動向と当ファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント



DIAMワールド債券オープン(愛称:ハビクロマイルド)

追加型投信/内外/債券

月次運用レポート(2012年5月)

DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンドの運用状況

＜今後のマーケットの見通しと運用方針＞

ユーロ圏で景気後退局面を迎える国が増加していますが、北米では着実に景気が改善しているほか、中国の景気減速も緩やかなものとなる公算が高まっています。多くの主要国が極めて緩和的な金融政策を継続する見込みであるため、世界景気は緩やかな拡大局面が続くものと見えています。世界の債券市場では、主要国での低金利政策を受けて、利回りは総じて低水準で推移することが予想されます。

当ファンドの組入国では、景気サイクルに差異があるため、国によりまちまちな動きになると予想しています。為替市場では、低金利により商品市況がサポートされやすい環境であることに加え、財政など経済構造が良好な国が資金の投資先としての需要を集めているため、当ファンドの組入通貨が上昇しやすい環境であると見えています。ただし追加利下げが予想されるオーストラリアについては、短期的に通貨安となる可能性があるかと見えています。

＜カナダ＞

実体経済の動向と比べ政策金利が低水準に設定されているため、緩やかな景気回復が続くものと思われます。中央銀行は低金利による住宅価格の高騰を警戒しつつ、経済全体が十分に回復するタイミングを待って利上げを行うものと思われていますが、その時期は来年初め頃になるものと見えています。当面は低金利政策が続く公算が高いため、債券利回り(および価格)は横ばいの動きになると予想します。為替市場では北米地域での景気の着実な改善を受けて、円安カナダドル高になるものと見えています。

＜オーストラリア＞

小売売上高が増勢を示すなどいくつかの経済指標は景気の底堅さを示しているものの、企業の景況感は大きく悪化し、海外経済にも減速が見られることから、景気は下押し圧力を受けています。政府が財政黒字化を目指しているため財政出動による景気刺激は望み薄です。このため政界や財界から中央銀行による追加緩和に期待が寄せられており、こうした期待を背景に今月の債券市場では利回りが低下(価格が上昇)し、為替市場では円高オーストラリアドル安になると予想します。

＜ニュージーランド＞

不動産販売が増勢を示すなど国内経済は緩やかに回復を続けています。震災からの復興需要という内需の後押しが見込めるため、2012年後半から2013年にかけて経済が活性化していくことが期待されます。ただし最近の海外経済の減速や商品価格の下落といった材料もあるため、今月の債券市場では利回り(および価格)は横ばいを予想し、為替市場でもニュージーランドドルは円に対して横ばいになると予想します。

＜ノルウェー＞

昨年発見された大規模な油田の開発のため、設備投資の増加が見込まれています。ユーロ圏の景気低迷の影響は考慮する必要がありますが、住宅市場が好調に推移していることもあり、ノルウェーの景気は堅調に推移する見込みです。他方、通貨高に対する配慮が求められる環境であるため、政策金利は当面据え置かれる見込みです。低金利政策が続くため、債券利回り(および価格)は横ばいの動きになると予想します。健全な財政が評価されやすい環境にあるため、為替市場では円安ノルウェークローネ高になると予想します。

当ファンドでの運用方針は、基本国別投資比率(カナダ45%、オーストラリア35%、ニュージーランド10%、ノルウェー10%)に沿った比率を維持する予定です。ポートフォリオの平均残存期間については、現状と同程度の水準を維持する予定です。

日本国債の運用状況

＜マーケット動向と当ファンドの動き＞

当期の長期金利(10年国債利回り)は0.8%台まで大幅に低下する展開となりました。4月初めに発表された米国の雇用統計が予想を下回ったことや、スペイン国債の入札不調をきっかけに再び欧州債務問題への懸念が強まったことなどから、米国金利の低下が進行し、国内金利も低下基調となりました。その後も円高の進行と国内株式市場が軟調な地合いとなった中、年度始めの好需給環境から長期金利は低下を継続し、月末の日銀の金融政策決定会合において基金による国債買い入れ額の増額と、買い入れ対象年限の長期化等を含む追加金融緩和策が決定されると長期金利は一段と低下し、5月初めには2010年10月以来の水準となる0.855%まで低下する展開となりました。

＜今後のマーケットの見通しと運用方針＞

長期金利(10年国債利回り)は、0.9%を挟んだレンジでの推移を予想しています。米国経済は雇用や住宅環境の回復が力強さに欠けていること、欧州経済は債務危機の影響により景気減速が予想されていること、また中国をはじめ新興国の経済成長の鈍化が顕在化していること等から、世界景気の不透明感がやや強まっている状況です。こうした中、国内は震災復興需要による経済成長が予想されている一方、世界的な景気減速や円高の進行への懸念が残り、株式市場や為替市場等の動向を注視する状況が続いています。欧州債務問題が再燃する局面では、「質への逃避」から長期金利の低下圧力が強まると予想しますが、高値警戒感や消費税増税法案を巡る政局の流動化への懸念も強まっており、更なる長期金利の低下を抑制するものと予想しています。

引き続き当ファンドでは、国内債券のウェイトを目標の50%程度に維持しつつ、予想レンジに基づき国内債券のデュレーションをコントロールすることで着実な運用収益の積み上げを図っていく方針です。

上記のマーケット動向と当ファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。また、見通しと運用方針は、作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります。

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント



DIAMワールド債券オープン(愛称:ハピクロマイルド)

追加型投信/内外/債券

月次運用レポート(2012年5月)

お申込みメモ(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

| | |
|--------------------|--|
| 購入単位 | 各販売会社が定める単位(当初元本:1口=1円) |
| 購入価額 | お申込日の翌営業日の基準価額とします。 |
| 購入代金 | お申込みをされた販売会社が定める所定の日までに購入代金を販売会社に支払うものとします。 |
| 換金単位 | 各販売会社が定める単位 |
| 換金価額 | 換金のお申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額とします。 |
| 換金代金 | 原則として換金のお申込日より起算して5営業日目から支払います。 |
| 申込締切時間 | 原則として販売会社の毎営業日の午後3時までとします。 |
| 購入・換金不可日 | カナダの銀行の休業日に該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。 |
| 換金制限 | 信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。 |
| 購入・換金申込受付の中止および取消し | 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。 |
| 信託期間 | 無期限です。(設定日:2008年6月13日) |
| 繰上償還 | 次のいずれかに該当する場合等には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了する場合があります。 ①受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合。 ②受益者のために有利であると認めるとき。 ③やむを得ない事情が発生したとき。 |
| 決算日 | 原則として毎月5日(休業日の場合は翌営業日) |
| 収益分配 | 年12回、毎決算日に、収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※「分配金受取コース」の場合、決算日から起算して原則として5営業日までにお支払いを開始します。 ※「分配金自動けいぞく投資コース」の場合、税引後、無手数料で自動的に全額が再投資されます。 |
| 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。 |

お客様にご負担いただく費用について(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

以下の手数料等の合計額等については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

●購入時

| | |
|------------------------------|---|
| 購入時手数料 | 購入価額に3.15%(税抜3.0%)を上限として各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。 ※くわしくは販売会社にお問い合わせください。 |
| ●換金時 | |
| 換金手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.1%を乗じて得た額とします。 |
| ●保有期間中(信託財産から間接的にご負担いただきます。) | |
| 運用管理費用(信託報酬) | 信託財産の純資産総額に対して年率0.945%(税抜0.9%)を日々ご負担いただきます。 |
| その他費用・手数料 | 組入価値証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、監査費用、外国での資産の保管等に要する諸費用等が信託財産から支払われます。(その他費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。) |

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント



DIAMワールド債券オープン(愛称:ハビクロマイルド)
追加型投信/内外/債券
月次運用レポート(2012年5月)

投資信託ご購入の注意

投資信託は、

- ① 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ② 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ③ 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取扱いについてのご注意

- 当資料は、DIAMアセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡す投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 当資料はDIAMアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その情報の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また、掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている運用実績は税引前分配金を再投資したもとのとする基準価額の変化を示したものであり、税金および手数料は計算に含まれておりません。
- 当資料における内容は作成時点(2012年5月16日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 当ファンドは、実質的に債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者にかかる信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

◆ファンドの関係法人◆

- <委託会社>DIAMアセットマネジメント株式会社
- <受託会社>みずほ信託銀行株式会社
- <販売会社>販売会社一覧をご覧ください

◆委託会社の照会先◆

- DIAMアセットマネジメント株式会社
 コールセンター 0120-506-860
 (受付時間:営業日の午前9時~午後5時)
 ホームページ URL <http://www.diam.co.jp/>

販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

○印は協会への加入を意味します。

2012年5月16日現在

| 商号 | 登録番号等 | 日本証券業協会 | 社団法人日本証券投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 | 備考 |
|---------------|--------------------------|---------|-----------------|-----------------|--------------------|----|
| 楽天銀行株式会社 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第609号 | ○ | | ○ | | |
| カブドットコム証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号 | ○ | | ○ | | |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号 | ○ | | ○ | | |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号 | ○ | | ○ | | |
| 株式会社足利銀行 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第43号 | ○ | | | | ※1 |

●その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

<備考欄について>

※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。

※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。

※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)

当資料は10枚ものです。

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント



D I A Mワールド債券オープン (愛称:ハビクロマイルド)
追加型投信/内外/債券
月次運用レポート (2012年5月)

販売会社 (お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

○印は協会への加入を意味します。

2012年5月16日現在

| 商号 | 登録番号等 | 日本証券業協会 | 社団法人日本証券投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 | 備考 |
|----------------------|------------------------|---------|-----------------|-----------------|--------------------|----|
| ■以下は取次販売会社です。 | | | | | | |
| 帯広信用金庫 | 登録金融機関 北海道財務局長(登金)第15号 | | | | | |
| 盛岡信用金庫 | 登録金融機関 東北財務局長(登金)第54号 | | | | | |
| 福島信用金庫 | 登録金融機関 東北財務局長(登金)第50号 | | | | | |
| 結城信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第228号 | | | | | |
| 平塚信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第196号 | | | | | |
| さがみ信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第191号 | | | | | |
| 三条信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第244号 | | | | | |
| 柏崎信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第242号 | | | | | |
| 東京東信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第179号 | ○ | | | | |
| 多摩信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第169号 | ○ | | | | |
| 諏訪信用金庫 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第255号 | | | | | |
| 遠州信用金庫 | 登録金融機関 東海財務局長(登金)第28号 | | | | | |
| いちい信用金庫 | 登録金融機関 東海財務局長(登金)第25号 | | | | | |
| 滋賀中央信用金庫 | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第79号 | | | | | |
| 長浜信用金庫 | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第69号 | | | | | |
| 京都北都信用金庫 | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第54号 | | | | | |
| 永和信用金庫 | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第43号 | | | | | |
| きのくに信用金庫 | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第51号 | | | | | |
| 但馬信用金庫 | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第67号 | | | | | |
| 飯塚信用金庫 | 登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第16号 | | | | | |

●その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

<備考欄について>

※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。

※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。

※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)

当資料は10枚ものです。

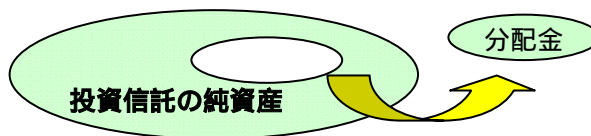
P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は
D I A Mアセットマネジメント



投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

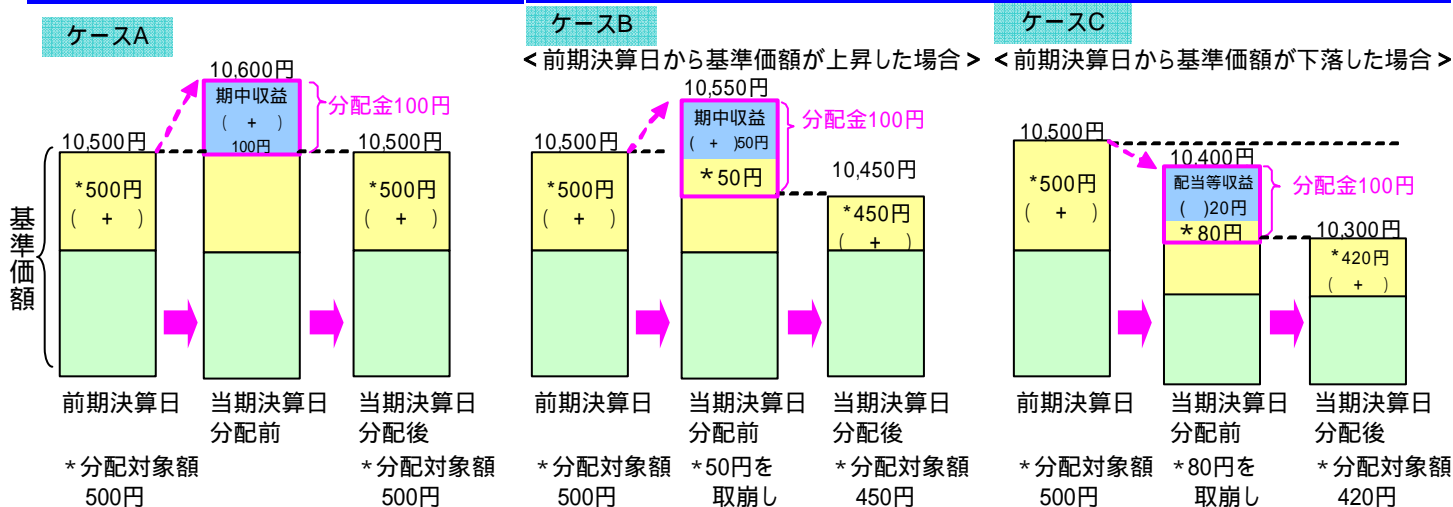
分配金額と基準価額の関係(イメージ)

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

配当等収益(経費控除後)、有価証券売買益・評価益(経費控除後)、分配準備積立金、収益調整金

計算期間中に発生した収益の中から支払われる場合

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



ケースA: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円 = 100円
 ケースB: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差 50円 = 50円
 ケースC: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差 200円 = 100円

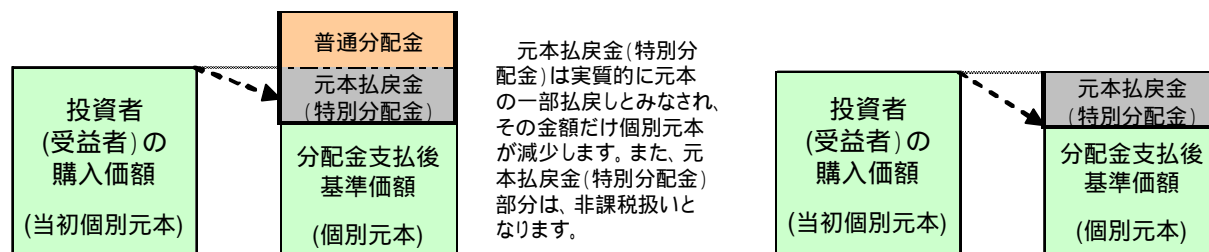
A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。

上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。
 (注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目録見書)をご確認ください。